

閉会挨拶（2023年2月7日）

運輸総合研究所理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、閉会に当たり一言申し上げます。

まず、ご登壇いただいた中村英夫先生、森地茂先生、杉山武彦先生、山内弘隆所長に敬意を表しますとともに、長時間にわたりご参加いただいた大勢の視聴者の皆様、そして日頃より当研究所の活動をご支援いただいている日本（にっぽん）財団に御礼を申し上げます。

本日のセミナーでは、「鉄道開業150周年を経て次の時代へ」をテーマとして、歴代研究所長の4名の先生方に、当研究所の研究調査実績を振り返りつつ、今後の課題や当研究所への期待について議論していただきました。

先生方のお話の中にも出てまいりましたが、これまで運輸総研は、大都市圏の鉄道網の整備に関する国の運輸政策審議会や交通政策審議会の答申に貢献する研究調査を数次にわたり実施し、これらの研究調査は、つくばエクスプレス、成田空港アクセス、都営地下鉄大江戸線や、東京メトロ副都心線と東急・西武・東武・みなとみらい線の直通運転、京阪中之島新線、阪神西大阪線の整備、なにわ筋線の事業化などの実現に繋がりました。このほか、都市鉄道の運賃改定の考え方の基となった研究調査、上下分離方式を提案し都市鉄道等利便増進法に影響

を及ぼした研究調査など、鉄道に関する数多くの実践的な研究調査を実施してきました。

これらはまさに、「学術研究と実務的要請の橋渡し」という当研究所に課せられた使命を果たした事例であると考えております。

さて、こうした当研究所の研究調査活動の中心に、常にいらっしゃったのが伊東誠主席研究員であります。伊東主席研究員は、1977年以来46年の長きにわたり当研究所に勤務され、この間、常務理事もお勤めになりました。主席研究員としての活動は、今年度末で一区切りつけ、来年度からは特任研究員として引き続き活動していただくこととなっております。この場をお借りして、伊東主席研究員の当研究所に対するこれまでの多大なるご貢献につきまして、心より感謝申し上げますとともに、引き続きのご指導をお願いいたします。

私からは以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。また、アンケートへのご協力も、よろしくお願いいたします。

本日は、最後までご参加いただき、誠にありがとうございました。